

日本共産党 和歌山市公議員

# ひめだ高宏ニュース

NO.1330

21.2.23

## 2月定例会市議会報告

2月22日(日)の2月定例会市議会が閉まりました。今議会での市議会に続き、コロナ感染対策として議会日程をキャンセルし、延期(休会)ということになり、代表質問は通常通りですが、一般質問は一人一人に制限され、日本共産党市議団は、井本有一議員が代表質問を私ひめだが一一般質問をするということになりました。質問項目は2面の通りです。本日は、議会初日の様子を取り組みについて報告します。

## 市議会議場の天井ススキリ

2月15日の地震により市議会議場の天井の照明の飾りの一部が壊れて落下しましたが、その後、飾りを取り除き、その結果、ススキリと明るくなりました。

春がきた  
春がきた  
春がきた  
春がきた

春がきた  
春がきた  
春がきた  
春がきた

春がきた  
春がきた  
春がきた  
春がきた

春がきた  
春がきた  
春がきた  
春がきた

## 施政方針・補正議案の質疑

午前10時、全員出席で2月定例会市議会が開会され、各会派の半数は議場に残り、半数は会派控室でインターネット中継を見ました。まず、市長から施政方針が示されました。施政方針のあたりには、財政局長、企業局長から補正予算をはじめ補正議案の説明があり、日本共産党の中村あさこ議員が、補正議案の質疑を行いました。質疑の中で、和歌山市衛生研究所が有料で実施している、井戸水等の一般水質検査を検査機器の老朽化と検査依頼数の減少を理由に検査を止めるための条例の

提案は、衛生研究所検査能力を低下させる問題があり、まず、他の一応会派からも水質検査廃止の問題ありの

## 今週のフワフワ人々

(20216)

「わが身に春」が来た テレビでは暖かい日差しに誘われ全国各地の梅林や海に人が繰り出し遊んでいるニュースが流れていました。21の日曜も22の日曜も良い天気でした。暖かくなるのはうれしいことですが、日曜の夜あたりから目がかゆい。良くないとは思いつつも、も、ついつい目をこすいちゃう。まぶたをこすってしまいます。いよいよ今年も「わが身に春」が到来し

声がめわっているようです。井本均副市長が退任し、市長から新副市長に教育長の富松博氏が推薦された。日本共産党も賛成し、全議員が同意した。

花粉症が始まったようです。去年の秋口あたりから、風邪をひいているわけでもないのに、鼻水が少しか出てくることがあり、春に続き秋の花粉症も出てきたのだから、なごと思いつくもありません。したが、それもいつの間にかなくなっていました。コロナも収まらないうちに、年が過ぎ、再び花粉症の季節に突入。今しばらくガマンして夏を待とうとします。



ひめだ高宏

### 2月例会市議会代表一般質問事項

順	議員名	質問事項
1	中谷謙二 (自由民主党)	新型コロナウイルス感染症について ・データ駆動型社会について
2	中尾友紀 (公明党)	コロナ対策並びに社会経済対策、行政 のデジタル化、防災・減災、木造所蔵品の活用
3	芝本和己 (政和クラブ)	市長の政治姿勢(まちづくり、財政、コロナ対策、 動物愛護、IR、紀国文化祭2021、SDGs)
4	井本有一 (日本共産党)	市長の政治姿勢(新型コロナ対策、社会福祉、 IR、平和行政、高校統廃合)
5	山本忠相 (民主クラブ)	新型コロナ感染症対策、「子育て環境 日本一」の実現、デジタルトランスフォーメーション
6	浜田真輔 (興志クラブ)	新型コロナウィルス対策について( PCR及び抗原検査、ワクチン接種)
7	山野麻衣子 (日本維新の会)	市長の政治姿勢(移住・定住の促進、道の 駅「四季の郷公園」、博物館、財政の改善)

↑【代表質問】 ↓【一般質問】

1	永野裕久 (民主クラブ)	新型コロナウィルス感染症対策(人権問 題、自殺防止対策)
2	ひめだ高広 (日本共産党)	中央卸売市場について ・スポーツ施設について
3	松井紀博 (政和クラブ)	保健衛生施策(ワクチン接種、医療体制) ・環境保全施策(脱炭素社会の実現)

○当初議案の質疑は南畑さち代議員が行います。

## こどもたちは 日本共産党

### 日米演習1245日

しんぶん赤旗が、防衛省への情報公開請求で入手した資料を基に、結果、自衛隊と米軍が2019年度に実施した共同訓練・演習(日米双方が

参加した多国間共同訓練を含む)が少なくとも76回、延べ1245日に達したことが分かりました。

延べ日数の内訳は、統合幕僚監部が担当する統合演習が92日、陸上自衛隊が95日、海上自衛隊が59日、航空自衛隊が163日でした。海自は、インド太平洋地域で2カ月以上に

およぶ長期巡航訓練を行い、米、仏、豪などと共同訓練を行いました。

日本版海兵隊、といわれ陸自の「水陸機動団」が初めて海自のヘリ搭載型護衛艦「いずも」に乗艦して長期航行、南シナ海で米原子力空母などととも日米共同訓練を実施しました。

## 潮流

「原発事故によって、全国が警戒区域に指定された場所です。老夫婦で、あるいは独りで帰還させている高齢者が多いのです。心配です」

福島県の南相馬市小高区に住む作家、柳美里さんは自身のブログやSNSで発信し続けました。日深夜に起きた最大震度の強の地震。10年前の恐怖がよみがえり、不安の一夜を送った人たちの思いが生ま

しい▼揺れは、津波は、原発は大丈夫か? 東電はいち早く「異常なし」と発表しましたが、実は事故で損傷した原発格納容器の水位が下がり続けている、地震の影響で損傷部が広がったか、と1週間もたって公表。冷却水の漏れはないといいますが、▼国や東電がふるさとを奪った1千葉県に避難した住民の「ふるさとを喪失」をめぐり訴訟で、東京高

裁は国の対応を断罪し東電とともに国にも賠償を命じました▼2002年に国が公表した地震予測の長期評価に依拠し対策を講じていれば、第一原発の全電源喪失という事態は住じなかつた。東電に対策を命じたのは規制権限の不行使だ。と、原発を推進しながら、役割を果たさぬまま原発頼みの政策に走る国に対する痛烈な批判でもあります▼心に希望の光をともしてくれば、判決後の集

会でマイクを握った原告、南原聖寿さん(61)は妻子とともに南相馬市小高区から千葉県君津市に避難しました。原発事故から10年の節目。事故さえなければ別の人生を歩んでいた人たちが、判決が「新たな出発となる」ことへ痛切な願いが込められています。

しんぶん赤旗  
日刊 3月4日  
日刊 3月30日